

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

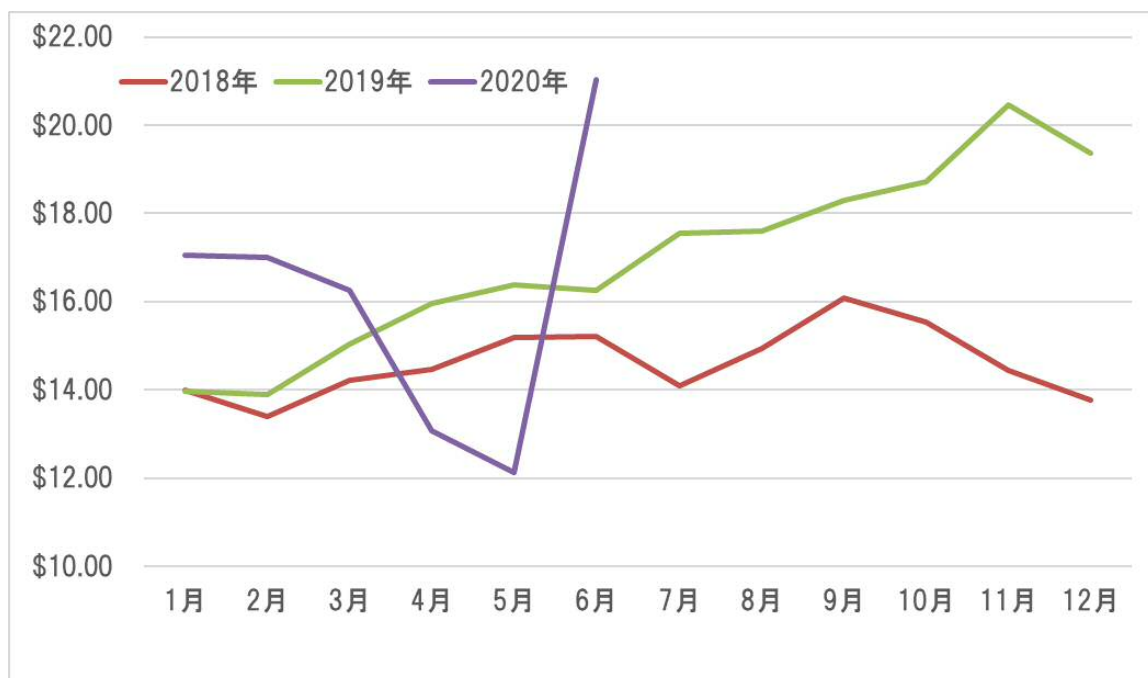
北米コンテナ船情勢

徐々に再開する世界的な経済活動を背景にコンテナ貨物の流通は回復傾向にあります。しかし全世界の貨物流通量は、COVID-19発生前と比較し2割ほど低い水準で、いまだに航路によっては減便が行われながら運航が続いています。

米国西海岸PNWのシアトル・タコマ港や内陸の保税貯蔵置き場であるソルトレイクシティでは空コンテナの不足は続いているますが、PSWのロサンゼルス・ロングビーチ港では貨物の流通が徐々に回復しているため比較的、空コンテナを確保できるようになっています。

米国乳価状況

7月1日に USDA（米国農務省）が発表した6月の全米平均クラスⅢ乳価は、乳製品100ポンドあたり\$21.04と前月比\$8.9急上昇しています。\$20台の乳価は6年ぶりです。この動きはCOVID-19の影響を受け米国国内で減産が行われことと、政府の買い支えにより乳製品の在庫率が低迷し同時に外食産業や小売りが再開したことで需要が回復傾向にあることが要因と考えられます。



（出典：USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位：米国ドル/100ポンド）

ビートパルプ

【米国】

20年産ビートパルプの作付面積は昨年比でわずかに増加しており、生産量は例年並みもしくは若干の増加が予想されています。一部の地域で降雨がありましたが、多くの地域で好天に恵まれており順調に生育しています。

アルファルファ

ワシントン州

既報の通り主産地コロンビアベースンでは南部を中心に1番刈の収穫期に断続的な降雨があったため多くの雨当たり品が発生しました。雨当たりを避けられたアルファルファも極力不測の降雨を避けるために日中にベーリングされたものが多く、例年以上にドライ気味の品質が多く、葉付きの良い上級品の発生は限定的です。また例年に比べ茎がやや細い傾向にあることも20年産の特徴です。

現在コロンビアベースンでは2番刈の収穫が始まっています。収穫序盤、南部のいくつかの圃場で雨当たりが発生していますが、その後天候は持ち直しておりベーリングが本格化しています。好天が続いているため、2番刈は良品の発生が見込まれています。

産地相場は19年産繰り越し在庫も無く、国内外からの需要も強いため上級品は昨年の同期に比べ若干強含みで取引されています。1番刈で上級品の発生割合が少なかったことから、2番刈以降も上級品については産地相場は堅調に推移すると見込まれています。



(アルファルファ1番刈 コロンビアベースン 6月中旬撮影)

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズではアルファルファの1番刈の収穫が終了しています。一部降雨の影響を受け雨当たりが発生していますが、綺麗な上級品も発生しており全体では例年並みの作況となっています。オレゴン州中部クリスマスバレーは1番刈の収穫は終盤を迎えています。作況は良いもののワシントン州産1番刈の不作を受けて産地相場は堅調です。



(アルファルファ1番刈 クラマスフォールズ 6月下旬撮影)

ネバダ州・ユタ州

ネバダ州西部のイエリントン周辺では1番刈の収穫が終了しています。収穫中の6月中旬に降雨があり一部で雨当たりの被害が出ています。

ユタ州では1番刈の収穫作業は終了しています。当地は雨当たりの被害を殆ど受けずに収穫できた数少ない地域の一つとなりました。両産地とも米国内の乳価が復調していることを背景に需要が強くなっており産地の相場は堅調です。

カリフォルニア州

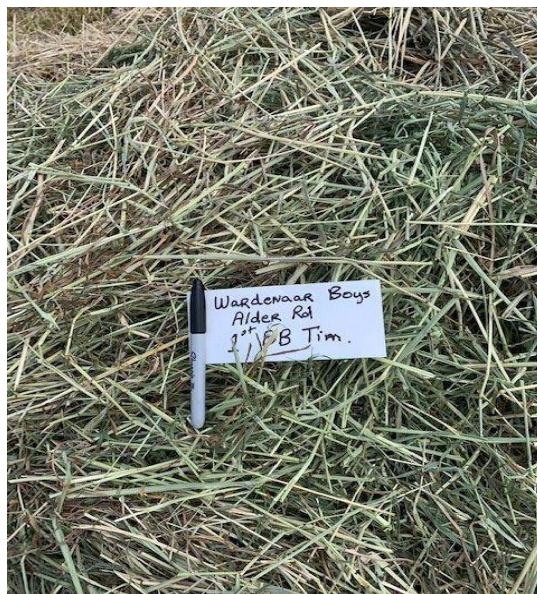
カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、4番刈の終盤を迎えており、一部の生産者では5番刈を開始しています。産地ではすでに気温が40℃を超えており、サマーハイと呼ばれる中級品以下の品質を中心に発生しています。

米国産チモシー

主産地であるコロンビアベースンでは1番刈の収穫作業が終了しました。南部を中心に収穫期に断続的な降雨があったため、上級品の発生は限定的となり、多くが中級品から低級品となっています。品質については上級品であっても豊作であった19年産に比べると、20年産は茎質や茶葉の混入割合などやや劣る傾向にあります。

もう一つの主産地であるエレンズバーグでは6月中旬から収穫作業が開始しており、現在収穫は終盤を迎えています。6月下旬から天候が落ち着いたことで、上級品がいくつかが発生しています。しかし20年産として上級品の発生量が限られていることから、

産地では輸出業者の旺盛な買い付けが行われており、上級品の価格は19年産に比べ大幅に上昇しています。他方で中級品以下の価格は落ち着いているため、20年産は上級品と中級品以下の価格差が例年以上に大きくなっています。



（1 番刈上級品チモシー（左）、1 番刈低級品チモシー 7月上旬撮影）

スーダングラス

主産地であるインペリアルバレーでは20年産1 番刈スーダンの収穫が後半を迎えています。20年産は収穫開始が2－3週間遅れたことで、茎のサイズが安定した上級品の発生は例年よりも少なく、また茶葉の混入したスーダンの発生が例年よりも多くみられています。

産地灌漑局によると20年産は6月25日発表の作付面積42,546エーカーをピークに7月1日時点では42,032エーカーとなっています。これは昨年比同期比9%少ない水準となっています。価格については直近のチモシー高騰を受け、スーダンへの引き合いが増加しており産地では上級品を中心に価格がやや上昇しています。



（20年産スーダン上級品 6月下旬撮影）

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では 2 番刈の収穫が後半戦を迎えており、スケジュールの早い生産者では3番刈の収穫を開始しています。2番刈の品質は1番刈と異なり雑草の混入は少なく、輸出に適した品質が生産されています。相場については他の草種が上昇している中、クレイングラスの価格は比較的落ち着いています。

他方で産地では生産者にとって魅力的な価格でなくなっているため3番刈を最後に他の作物へ転作する動きも出ています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

産地では種子の収穫が例年よりも 1 週間ほど遅れて開始しています。このまま好天が続けば7月中旬頃からフェスキュー、アニュアル種ライグラスストロー、ペレニアル種ライグラスストローの順にストローのベーリングが開始されます。19年産は主産地のウィラメットバレー近郊に新設したバイオマスプラントが5万トンのアニュアル種ライグラスストローを買付しており、20年産は6万～7万トン程度になることが予想されています。今後の産地相場の動向に注視が必要です。

カナダ産チモシー

20年産の作付面積につきましては、19年産とほぼ同水準になると予想されています。産地では生育期において冷涼な気候が続いたため、アルバータ州南部レスブリッジでは例年より1週間遅い7月上旬から1番刈の収穫が開始しています。

非灌漑エリアである同州中部のクレモナもやや冷涼な天候によりスローな生育が続いています。土壌水分は良好で今のところ単収は平年並みの1エーカーあたり2.25～2.50トンが期待され、7月下旬ころからの収穫が見込まれています。



（20年産カナダチモシー アルバータ州南部 7月上旬撮影）

豪州産オーツハイ／ウィートストロー

オーツハイの播種作業は完了しています。6 月中に西豪州の内陸を除き、産地で降雨がありました。引き続き土壌水分は良好で温暖な気候も手伝い生育は順調です。

豪州統計局発表の輸出統計によると今年 1 月から 5 月までに各国に輸出された豪州産オーツハイ及びウィートハイは前年比 1 2 1 % と大幅に増加しています。特に中国向けは前年対比で倍近い数量が輸出されています。これは中国国内の自給飼料の不作が主要因とされており、引き続き強い需要があり各輸出業者の製造スケジュールは逼迫しています。こういった各国からの強い引き合いを背景に産地相場は堅調です。

	2020 1 月- 5 月	2019 1 月- 5 月	前年比 1 月- 5 月
日 本	181,032	189,605	95.5%
韓 国	72,283	64,234	112.5%
中 国	155,656	78,544	198.2%
台 湾	39,149	36,198	108.2%
総 計	466,855	383,462	121.7%

出典：豪州統計局 ABS(Australian Bureau of Statistics)

豪州コンテナ船情勢

ここ数か月、空コンテナの確保が厳しい状況が続いていましたが、6 月下旬頃から全港的に状況が改善され始めています。しかしながら船のスケジュールは現状も不安定な状況が続いています。

以 上